

■不知火舞バカンス陵辱

「とっても怪しいお誘いだったけど……なによ、スゴくいい所じゃない♪」

とある南島、青天の下、水着姿で美貌を輝かせる美女、不知火舞。
南の島で開催される、美女だらけのバカンス。
怪しいイベントに半信半疑で参加した舞だったが……
数日過ごしてみたところ、特に怪しい様子はない。
頻繁にカメラで動画や写真を撮影するので、それが流出する惧れはあるが……
危険を感じる要素はそれくらいで、ある意味実に健全なイベントというのが判明。
衣食住、娯楽、全てが一流のもので揃えられた、快適なバカンス。
他の女性たちと共に舞も警戒を解き、忍ではなく一人の女性として愉しんでいた。

周囲には女性だけというのもあり、開放的な赤いビキニに着替える。
男の視線を気にすることなくはしゃぎ、共に招かれた美女たちも見劣りするような女体美を惜しげも無く晒す。
もしこの場に男がいたならば、舞を筆頭にした夢の光景に興奮を禁じ得ないだろう。

「ふうっ……ちょっと一息いれましょうか」

疲労を癒すため、一人で休憩に入る舞。
ショップでスイーツをつまんだ後、水着コーナーをのぞいてみる。

(こんな大胆なもの置いてあるのねえ……)
「っ?!」

際どいカットの入った水着、布面積の少ない水着を物色していると、
不意に視界の端に人影が入る。
ちょうど裏から店員が入ってきたのだが……それが男性店員だったのだ。
男がいないはずの場に突然現れた彼に、舞は小さくではあるが驚愕する。

(なによ、男もいるんじゃない。……まあ、可愛い子だけど)

現れた店員は男。だが招いた女性たちへの配慮なのか、何か事情があるのか、まだ小さな少年だ。
しかもこんな開放的なビーチで働くにも関わらず初心なようで、舞と目が合った瞬間、顔を背けてもじもじと
している。

「……ふうん……♪」

バカンスで心身共に解放された舞。可愛らしい男子を前にして、過ちとまではいかずとも
ほんの少しだけ、からかいたい悪戯な感情が芽生えてくる。

「ねえキミ？ 何を買おうか迷っちゃったんだけど……オススメとかないかしら？」

少年に近付き、迷ったフリをしてオススメを聞いてみる。
視線を合わせるため前屈みになっているからか、谷間が見えて少年は困惑してしまう。

(ふふ……見てる見てる♪)

せっかくの常夏の島なのだ、こんな悪戯もいいだろう……と言い訳し、
逆セクハラで嗜虐欲を満たす。
少年は挙動不審になりながらビキニ……今、舞が着用しているものにミニスカートを付けたデザインのもの
を指した。

「これね？ ……ふう～ん……」

悪戯っぽく微笑む。
単にオススメだからというよりは、『舞に着て欲しい』という願望も少なからず察することができたからだ。

「ありがと♪ じゃ、さっそく着替えてくるわね♪」

サイズを確認するとすぐに購入、更にショップ内の試着室で早速着替えることにした。

「……覗いちゃダメよ？」

カーテンを閉める直前、釘を刺す、という体でまたセクハラ発言で挑発。
緊張していた少年は更に困ってしまったか、俯いて固まってしまう。

(可愛いけど、あれじゃ男としてダメねえ……♪ さて、すぐ着替えて戻ろうかしら♪)

そしてカーテンを閉め切り、舞は今着ている水着を脱ぎ捨て……

——……
—————

試着室から出た舞。その身には、先ほど購入した新しい水着……赤いミニスカ付のビキニを纏っている。
だが下半身には赤だけでなく、それを覆い尽くすような白濁もこびりついていた。

ゴブ♥♥ ゴポオ……♥♥

「……………つつつ♥♥♥」

静まり返ったショップの中に、店外の女性たちから舞を呼ぶ声が届く。

しかし、舞がそれに応えることはなかった――

ドブ……♥♥ ブシュ♥♥ プシヤアア……ツ♥♥

「お……………♥♥♥ お♥♥♥♥

……………つつ♥♥♥♥」



翌朝。

舞は再びショップに来ていた。昨日の少年と再会するためだ。

「昨日は……よくもヤッてくれたわね……！」

強い怨恨を込めた視線で少年を睨む。

それもそのはず……舞は昨日、着衣室の中で少年に悍ましいまでの陵辱を受けたのだ。

着替え終えた瞬間を狙い着衣室に侵入した少年は、忍者である舞の目にも留まらぬ速度で背後をとり、後ろから水着姿の舞を強姦した。

その際の手際、技量は凄まじく……

舞は体格で勝るはずなのに膂力と快樂でまともに抵抗できず、成すが儘に美肢を堪能されてしまう。

嬌声混じりに叫んで助けを呼ぶが、不運にも店の近くには誰も来ることはなく、

そのまま少年の陵辱は最後まで及び……膣内射精の末にこの上ない絶頂を味わわされ、

昨日の状態……事後に至る、というわけだ。

散々な悪事を働き、かつ憎しみの目を向けられても何食わぬ顔の少年に、

舞は堂々と近付いていく。

「あんなことされて、ただで済ませるわけにはいかないわ。大人しく……」

くりっ♥

「あっ♥ こ、こらっ、待ちなさいっ！」

大人として話をつけ、彼に真っ当な償いをさせようと考えていた舞。

だが少年は一切悪びれない。不意を突いて舞の乳首を水着越しに摘まみ上げると、

店の裏口から逃げてしまう。

(もう……なんなの、あの子はっ?)

一瞬での確に乳首を摘まみ、それだけで強い快樂を与える……

少年の人外じみた淫技に恐怖を感じながらも追いかけて、シャワー室に辿り着く。

だが少年の姿は見当たらない。辺りを見回していると、突然ビキニのショーツの中にシャワーが突っ込まれる。

(どこにいるのよ？ 間違いなくこの中に……)

「あっ?!」

シヤアアアアアアアツ♥ くりくりくりくりいいいいつ♥

「あ♥ お♥♥ お~~~~~っ♥♥♥」

(いつの間に……♥♥♥ だ、ダメ、シャワーで……イク……っ♥♥♥)

陰核をあらゆる角度からぬるま湯が撃ち、更に乳首が再び揉み回される。

少年がまたも背後に回り、シャワーをビキニの中に突っ込みつつ胸を愛撫したのだ。

いきなりの責めでありながら、やはり少年の責めは舞の身体を一瞬にして発情させる。

思いがけない刺激を受け、舞はあっさりとシャワー責めに絶頂してしまった。

「はっ♥♥♥ は……っ♥♥♥ ちょ、ちょっと、ここでやる気なの？」

更に少年は舞を後ろから抱え、昨日と同じくビキニショーツの股間部をズラして陰部を露出させる。

シャワー室の中で再び陵辱するつもりなのだ。

他の誰かがやってくるかもしれない場所というのもあり、舞は少年の神経を疑うが、それで止まってくれるはずもない。



「正気なの?! あ……♥♥♥」

(また……来る……♥♥♥ この子の……スゴいおちんぼ……っ♥♥♥)

体験版はここまでです。続きは製品版で！